

## 2004年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2005年1月31日

### I 概要

実践団体・担当者名	愛知県名古屋市立上社中学校 (担当者：橋本吉太郎)																																				
連絡先	電話052-704-2235																																				
プランタイトル	新たな自分を心豊かに創造しよう ー防災地域・上社ー																																				
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時の場面で適切な判断や必要な行動ができるように、訓練を通じて実践的な態度を養う。</li> <li>○ 避難所への避難を想定して、地域や学校での対策を知らせ、平常時に必要な取り組みに気づかせる。</li> <li>○ 地域の防災組織との協力を通して、幼児・児童・高齢者・要援助者に対して中学生である自分ができる力を確信して、自主自立の精神をはぐくむ。</li> </ul>																																				
プランの概略	<p>地震発生を想定した防災活動</p> <p>(1) 自治会ごとの避難活動</p> <p>(2) a 本部設営ならび班編制</p> <p style="padding-left: 20px;">b 防災ボランティアから発生時や平常時の対応についての話</p> <p>(3) 避難所での活動 各班の活動を自治会ごとに分担・順番を決めて実施</p> <p>ア 総務班・施設班・物資班・起震車体験</p> <p>イ 消火活動班・救護活動班・救助活動班</p> <p>ウ 食糧班(炊き出し)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>自治会名</th> <th>自治会責任者担当</th> <th>住民・生徒の活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①上社三丁目</td> <td>総務</td> <td>総務→施設→物資・起震車</td> </tr> <tr> <td>②上社四丁目東</td> <td>施設</td> <td>施設→物資・起震車→総務</td> </tr> <tr> <td>③上社四丁目西</td> <td>施設</td> <td>施設→物資・起震車→総務</td> </tr> <tr> <td>④上社五丁目</td> <td>物資・起震車</td> <td>物資・起震車→総務→施設</td> </tr> <tr> <td>⑤貴船一丁目</td> <td>食糧(炊き出し)</td> <td>食糧班(炊き出し)</td> </tr> <tr> <td>⑥上社五丁目南</td> <td>食糧班(炊き出し)</td> <td>食糧班(炊き出し)</td> </tr> <tr> <td>⑦姫若・小井堀</td> <td>食糧班(炊き出し)</td> <td>食糧班(炊き出し)</td> </tr> <tr> <td>⑧社が丘一丁目</td> <td>消火・バケツリレー</td> <td>消火→救出→救護</td> </tr> <tr> <td>⑨社が丘二丁目</td> <td>消火・消火器</td> <td>消火→救出→救護</td> </tr> <tr> <td>⑩社が丘三丁目</td> <td>救出</td> <td>救出→救護→消火</td> </tr> <tr> <td>⑪社が丘四丁目</td> <td>救護</td> <td>救護→消火→救出</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 活動の収束(炊出配布) (5) 講評 (6) 片づけ</p>	自治会名	自治会責任者担当	住民・生徒の活動	①上社三丁目	総務	総務→施設→物資・起震車	②上社四丁目東	施設	施設→物資・起震車→総務	③上社四丁目西	施設	施設→物資・起震車→総務	④上社五丁目	物資・起震車	物資・起震車→総務→施設	⑤貴船一丁目	食糧(炊き出し)	食糧班(炊き出し)	⑥上社五丁目南	食糧班(炊き出し)	食糧班(炊き出し)	⑦姫若・小井堀	食糧班(炊き出し)	食糧班(炊き出し)	⑧社が丘一丁目	消火・バケツリレー	消火→救出→救護	⑨社が丘二丁目	消火・消火器	消火→救出→救護	⑩社が丘三丁目	救出	救出→救護→消火	⑪社が丘四丁目	救護	救護→消火→救出
自治会名	自治会責任者担当	住民・生徒の活動																																			
①上社三丁目	総務	総務→施設→物資・起震車																																			
②上社四丁目東	施設	施設→物資・起震車→総務																																			
③上社四丁目西	施設	施設→物資・起震車→総務																																			
④上社五丁目	物資・起震車	物資・起震車→総務→施設																																			
⑤貴船一丁目	食糧(炊き出し)	食糧班(炊き出し)																																			
⑥上社五丁目南	食糧班(炊き出し)	食糧班(炊き出し)																																			
⑦姫若・小井堀	食糧班(炊き出し)	食糧班(炊き出し)																																			
⑧社が丘一丁目	消火・バケツリレー	消火→救出→救護																																			
⑨社が丘二丁目	消火・消火器	消火→救出→救護																																			
⑩社が丘三丁目	救出	救出→救護→消火																																			
⑪社が丘四丁目	救護	救護→消火→救出																																			
プランの対象と参加人数	上社中学校生徒ならび教員、上社学区地域住民、上社学区連絡協議会、上社学区消防団、上社学区民生委員、名東区役所総務課、名東消防署、名東区社会福祉協議会、上社小学校の校長、教頭、教務主任、ボランティア 約400名																																				
実施日時	2004年9月11日																																				
主な実施場所	名古屋市立上社小学校(名古屋市名東区上社三丁目)																																				

連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	上社学区連絡協議会、上社消防団、 名東区役所総務課、名東消防署、名東区社会福祉協議会
	連携したきっかけ・ 理由	① 地域連絡協議会とは日常的に学校との関係があった。 上社学区連絡協議会委員長、上社学区民生委員長、 社会福祉協議会の方と打合せをする機会、東海地震に 対して生徒が考えていることを伝えたところ、それぞれに 防災の必要性を考えて、連携することになった。 ② 上社学区連絡協議会委員長による要請で行政においても 連携を得られた。
	連携団体への アプローチ方法	① 日頃より面識があった。 ② 上社学区連絡協議会委員長から要請した。
	連携団体との 打合せ回数	2時間× 2回 1時間× 8回（実践にあたっての準備打合せ）
	連携団体との役割分担	①防災訓練での内容と進行について相談した。

## II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5名
	外部スタッフの総人数	13名
	主なメンバーの 役職・役割	代表者 加藤 鎮(上社学区連絡協議会委員長) 奥村浩章(上社中学校長) 総括 牧野義金(上社学区消防団長) 佐藤 明(名東区役所総務課庶務係長) 田中誠治(名東消防署副署長兼総務課長) 鈴木雅彦(名東区社会福祉協議会事務局長) 伊藤京一(上社小学校長) 実務 井田幸信(名東区役所総務課庶務係主事) 坂井 浩(名東消防署総務課主査) 倉 綾子(名東区社会福祉協議会主事) 玉村文隆(上社中学校教頭) 橋本吉太郎(上社中学校教務主任) 大西貴久(上社中学校校務主任)
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2004年 3月 ~ 2004年 8月
	立案時間	2時間× 2回 1時間× 3回
	上記のうち打合せ回数	5回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○ 学区や生徒による自主的な消火、救護、救助の活動、避難所運営を進められるように したい。 ○ 自治会ごとに活動を担当するが、前回とは違うことを任せて、緊急時の対応をできるだけ 多く経験させたい。 ○ 防災弱者に対する対応を考えたい。	
プラン立案で 苦労した点	○ 自治会ごとの人数の割合が違い、防災訓練での活動における充実感を持たせるための工 夫。 ○ 住民主体の活動とするために、担当がどの程度かわるかの確認をすること。	

### Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4名
	外部スタッフの総人数	8名
	主なメンバーの 役職・役割	実務 井田幸信(名東区役所総務課庶務係主事) 坂井 浩(名東消防署総務課主査) 倉 綾子(名東区社会福祉協議会主事) 玉村文隆(上社中学校教頭) 橋本吉太郎(上社中学校教務主任) 大西貴久(上社中学校校務主任) 水野博実(上社小学校教頭) 那須義高(上社小学校教務主任)
準備に要した日 数・時間	準備期間	2004年 8月20日～ 2004年 9月10日
	準備総時間	1時間× 5回
	上記の内打合せ回数	5回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	名古屋市教育委員会 名古屋市消防局防災室防災計画課
	どのように働きかけたか	電話や文書で内容を連絡した。
	結果	活動を発表する実践発表会に参加していただいた。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	上社学区連絡協議会
	どのように働きかけたか	上社学区連絡協議会に参加して依頼した。 また、自治会の回覧板による案内をした。
	結果	160人を越える参加者に集まっていた。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	全保護者、PTA役員
	どのように働きかけたか	学校からの案内文書、学校だよりの配布 PTA役員への電話依頼
	結果	多くの保護者の参加を得られた。 PTA役員によって炊き出しが順調に進められた。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○機材：組み立て式簡易トイレ、炊き出しセット、無線 消火器、救出訓練キット、三角巾、起唇車 車椅子、アイマスク テント、長机、旗立て、三角バケツ、保護用コンパネ 避難所運営筆記具、STUFF用ザック

	入手先・入手方法	<p>○機材：組み立て式簡易トイレ、炊き出しセット、無線は、名東区総務課が持ち出し。          消火器、救出訓練キット、三角巾、起唇車は名東消防署が持ち出し。          車椅子、アイマスクは、名東区社会福祉協議会が持ち出し。          テント、長机、旗立ては、会場の上社小学校から借用          三角バケツは、各自治会が持ち出し。          避難所運営筆記具、STUFF用ジャケット、保護用コンパネ、炊き出しの米などは、チャレンジシップからの予算を用いて上社中学校が購入。</p>
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	<p>○機材：防災訓練での行う、消火活動、救出・救助活動、避難所運営活動において必要なものだから。</p>
参加者の募集	募集方法	<p>○ 町内への回覧板、学区連絡協議会から学区民生委員による連絡、保護者への案内の配布</p>
	募集期間	2004年7月～9月1日
	参加予想人数	400名
	実際の参加人数	400名程度
	募集方法の成功点	<p>○ 学区連絡協議会により自治会に直接はたらきかけることで各自治会ごとの意識が高まった。          ○ 回覧板による広報は、上社小学校の保護者に参加しやすさを感じさせたようで、小学校連れの方が多かった。</p>
	募集方法の失敗点	<p>○ 保護者への案内、自治会（町内）からの誘いから、保護者としてか、町内のものとしてかの迷いが幾分生じた。          ○ 避難時の持ち物の有無があいまいになり、持参する人と持参していない人とはらつきが出て、訓練の様子として統一感が幾分薄れた。</p>
準備で苦労した点・工夫した点	<p>○ 上社学区の防災訓練に生徒が参加するということを意欲を高めることをプリントの配布を数回に分けて行った。          ○ 各自治会が主体的に動けるように、マニュアルや掲示を工夫した。          ○ 各自治会の役割分けをし、ローテーションして役割を分散させた。</p>	

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月	2004年度上社学区防災区練計画		
12月	2004年度上社学区防災訓練計画		
2004 1月		2004年度上社学区防災訓練準備	2004年度上社学区防災訓練実施
2月			
3月	2005年度上社学区防災訓練の計画	上社小学校との年間計画の検討	
4月			3年生：上社学区防災マップづくり
5月			
6月	2005年度上社学区防災訓練第1案		2年生：公共交通機関の防災時の対策調査
7月	2005年度上社学区防災訓練第2案	上社学区連絡協議会委員長との打合せ 上社学区連絡協議会での依頼 上社小学校との打合せ	
8月		名東区役所での関係諸機関との打合せ 実務担当者との打合せ 必要資材の発注 上社小学校との打合せ 名東区役所での関係諸機関との打合せ	
9月		上社小学校での打合せ 防災訓練事前指導 防災訓練準備	2005年度 上社学区防災訓練実施 1年生：高齢者との交流
10月			
11月			実践発表会
12月			
2005 1月			



